

南城市

あつたばる

熱田原 貝塚

南城市知念志喜屋



26° 9' 10.79" N
127° 47' 47.11" E

遺物から様々な物を食べていた事がわかるのだよ。豊富な食料に恵まれたから、骨製や貝製の多種多様なペンダントや腕輪を作る事もできたのだからね。

用語解説

●高宮廣衛

1928 (昭和3) 年生まれ、2015 (平成27) 年没。那覇市出身。考古学者。沖縄諸島における考古学の土器研究の基礎を構築した。著書『沖縄縄文土器研究序説』、『沖縄の先史遺跡と文化』など。

●(土器)型式

特定の時期と地域から出土する共通した特徴を持つ土器の類型のこと。「○○式土器」のように使う。「○○」には、通常その土器が最初に見つかった遺跡の名前が入る。

●伊波式土器

うるま市石川の伊波貝塚から出土した土器に代表される形式の土器。平底の深鉢形が多い。縄文時代後期の土器で沖縄諸島及び周辺離島に分布する。

●学史

考古学研究の歴史。

●放射性炭素年代測定

放射性炭素 (¹⁴C) は炭素の同位体で、天然に存在する放射性元素のひとつ。地球上に広く存在し、食物連鎖によって生物に取り込まれる。遺跡に残る骨や貝、燃料に使った木炭、建物の柱、すべての有機物に炭素が含まれているので、放射性炭素年代測定法は、考古学の分野で最も広く使用されている。¹⁴Cは生物体が死ぬと減り始め、約5730年経過すると生前の2分の1になり、約1万1460年後には4分の1に、約1万7190年後には8分の1になる。この法則を基に、骨などの分析資料中にある¹⁴Cの量を調べることで、何年前のものかが推定できる。

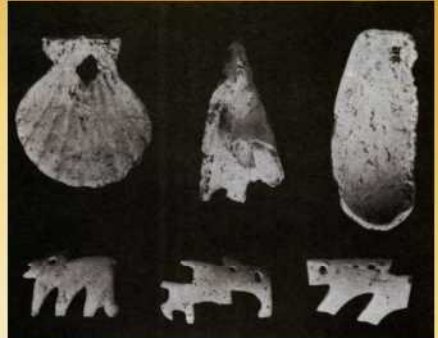
【参考文献】

- ・知念村教育委員会、1986。『知念村の遺跡』。
- ・知念村教育委員会、2002。『熱田原貝塚』。

●発掘調査風景



●ウミガメの腹甲板製の装飾品



●貝製品

沖縄県で初めて放射性炭素年代測定により遺跡の年代を解明した沖縄考古学史上重要な貝塚

字志喜屋の後方、熱田原と呼ばれる琉球石灰岩台地東端のフィッシャー (石灰岩の割れ目) 内に形成された、縄文時代後期 (約3500年前) の貝塚です。

遺跡の上部は、農道工事のため失われていますが、農道脇の溝 (フィッシャーの下底部) には、現在でも陸産貝類 (マイマイ等) を主体とした貝類が混ざった黒色の遺物包含層が残っています。

この貝塚は、1957 (昭和32) 年に高宮廣衛氏とC.W.ミーヤン氏によって発掘調査が行われ、その翌年に報告書が刊行されています。

この報告書によると、発掘調査によって出土した一連の土器は、他に類例をみない特徴を持つ事から「熱田原式土器」として型式名が付けられました。その後、類似資料の増加とともに「伊波式土器」のバリエーションが明らかになり、両者は同一型式であることが判りました。現在は考古学史上古い名称の「伊波式土器」に統一されています。その他の出土遺物としては、骨製や貝製の装身貝類が質・量ともに豊富で、その中には動物の形を表現・抽象化したもの等、多種多様なペンダントや腕輪などの製品が出土しています。

また、この貝塚は沖縄県で初めて遺跡年代を放射性炭素年代測定で解明した遺跡としても知られています。

南城市 𪗇ナグナーワンダー遺跡

南城市知念字久手堅



26° 10' 25.95" N
127° 49' 30.71" E

用語解説

- 琉球石灰岩
琉球列島に分布するサンゴ礁性生物の石灰質死骸が堆積し、約170万～50万年前に形成された岩。
- 野面積み
加工していない自然の石を、そのまま積み上げる石積み。もともと古くからある積み方。
- 琉球開闢
琉球の始まり。
- 斎場御嶽
沖縄最高の聖地で、琉球国の宗教的儀礼や自然信仰の場とされている。国王が何度も訪れたほか、聞得大君の就任儀式「御新下り」も行われた。2000年にユネスコ世界遺産に登録。

「𪗇ナグナーワンダー」と「𪗇キガナーワンダー」を中心に周辺の石灰岩塊を利用して築かれているんだね。

城壁は人頭大の石灰岩を野面積みにして築かれていて、一番高いところでは4mもあるんだよ。「𪗇キガナーワンダー」は、岩の頂上から土器片が採集されているのだよ。

【参考文献】
・知念村教育委員会、1986、『知念村の遺跡』。

北側石積み

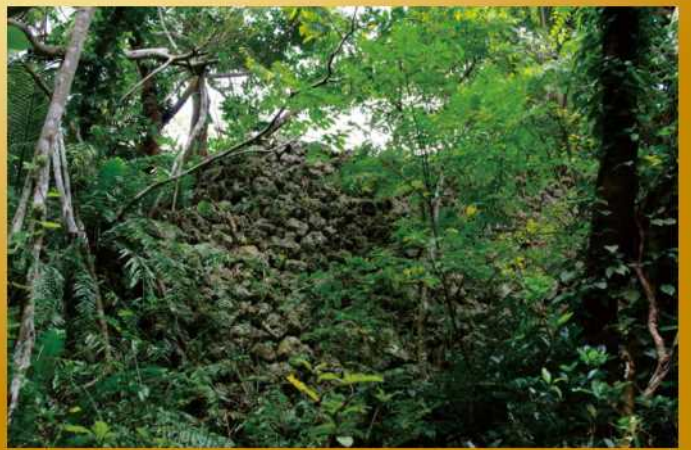


石灰岩の塊を巧みに利用したグスク

知念字久手堅の東北にある琉球石灰岩の岩山に隣接して築かれたグスクです。グスクの東方約150mには、琉球開闢の地として名高い斎場御嶽があります。この𪗇ナグナーワンダーに相対するように北方約50mには、高さ7～8m程のキノコ状の𪗇キガナーワンダーがそびえています(𪗇ナグは「女」、𪗇キガは「男」の意味です)。

𪗇ナグナーワンダーグスクの城壁は、人頭大の石灰岩を野面積みして築かれており、一番高いところでは4m程あります。グスク内のほぼ中央部には幅約2m、高さ約5mのフィッシャー(石灰岩の裂け目)が東西に走っているため、グスクはこれによって分断される形になりますが、橋の役目と考えられる大きな石灰岩が渡されています。

グスク内には二つの平坦な場所があり、グスク時代の土器の破片が少量採集されました。また、周囲の城壁は急斜面の上にある東側では低く、なだらかな斜面の上にある南側では高く積みまれています。



北側石積み

市指定史跡

南
城
市

おお しろ じょう あと
大城城跡

南城市大里字大城



26° 9' 58.82" N

127° 45' 30.51" E

市指定史跡（平成5年2月2日）



用語解説

- 郭
城内の平場を土塁や石垣などで囲んだ区域の名称。曲輪（くるわ）とも書く。
- 平山城
平坦地にある丘陵を利用して築いた城。
- 野面積み
加工していない自然の石を、そのまま積み上げる石積み。もっとも古くからある積み方。
- 根石
石垣などで一番下に積む、基礎となる石。
- 島添大里按司
14世紀頃に、島添大里間切（現在の南城市大里・佐敷・知念・玉城）を支配していた按司。「島添大里グスク」は、その「島添大里按司」によって築かれたグスク。
- 長堂原
南城市知念久手堅にある地名。

遺跡遠景



おお しろ じょう あと きゅう おお ざと 大城城跡は旧大里村の標高143mの独立した
 小さな丘の上に造られました。二つの郭からなる平
 つく くるわ ひら
 山城でグスク内部には平坦な場所が広がります。
 やま じろ へい たん
 東側のみに傾斜地があり、その他の周りは崖にな
 けいしゃ かけ
 っています。現存している城壁は野面積みであるこ
 げん ぜん じょう へき の づら づ
 とが確認できますが、根石に近いところしか残って
 かく じん ね いし
 いないため、当時の城壁の高さを知ることはできま
 じょう へき
 せん（首里城を築城する時に、大城城跡の石が持
 し り じょう ちく じょう おお しろ じょう あと
 ち出されたとも伝えられています）。

ちく じょう ころ
 築城の時期はよくわかりませんが、14世紀頃の
 の言い伝えがあります。大城城跡は玉城按司の次
 おお しろ じょう あと たま ぐすく あ じ
 男である大城按司の居城でしたが、島添大里按司
 おお しろ あ じ きよ じょう しましー おお ざと あ じ
 に滅ぼされ廃城したとされています。大城グスク
 ほろ はい じょう おお しろ
 （大城城跡）と大里グスク（島添大里城跡）との間
 おお しろ じょう あと おお ざと しましー おお ざと じょう あと
 に合戦が行われたという伝説も残っており、次のよ
 うに語られています。「両軍は長堂原で大合戦を演
 なが どう ばる えん
 じ、大城グスク軍が優勢のうちに戦局は進んでい
 おお しろ ゆう せい せん きょく
 ったが、大城グスク軍の旗手が誤って軍旗を倒し
 おお しろ きしゅ あやま たお
 た。城中からこれを眺めていた妃や若按司（王子）
 じょう ちゅう なが きさき わか あ じ
 らは敗北したものと思い、城に火を放って自害した。
 じょう へき ぐすく
 この有様を見た大城グスク軍は勢いを無くし、結
 あり さま おお しろ いきお
 局敗北してしまった。」

【参考文献】

- ・大里村教育委員会。1992。『大里村の遺跡』。
- ・南城市教育委員会。2017。『南城市のグスク』。
- ・南城市教育委員会。2018。『南城市の御嶽』。

1300	1400	1500	1600
グスク時代	三山 第一尚氏	第二尚氏 (前期)	
中森期	中森期		

●大イベ



自然の地形を利用して築か
れているグスクだよ。西側
に城門を開いて、本丸と二の
郭でできているのだよ。

多くの伝承を残す 二つの郭を有するグスク

首里城を築城する時に
ここから石が持ち出された
みたいだね。



●イジャムトゥ

南城市 ティミグスク

南城市知念字久高



26° 9' 47.32" N
127° 53' 31.76" E

用語解説

- 久高島
沖縄島南部知念半島の東方約5kmの太平洋上に浮かぶ小島。面積1.39km²、周囲7.75km、最高標高17.1m。
- 野面積み
加工していない自然の石を、そのまま積み上げる石積み。もっとも古くからある積み方。
- 郭
城内の平場を土塁や石垣などで囲んだ区域の名称。曲輪(くるわ)とも書く。



誰が築いたグスクなのか、まだわかっていないんだね。

海岸に突出する石灰岩上からは湾内が一望でき、飲み水になる井泉があること、近くに砂浜があること等、築城に適した場所にあるグスクなのだよ。



ここから 虎口



久高島の西岸に残る野面積みの小規模グスク

ティミグスクは、久高島のほぼ中央部の西海岸に突き出た石灰岩の崖上(標高16m)に築かれています。グスクの周囲はほとんどが急な崖で、東南～南側のみ平地となっており、その先に畑が広がっています。また、グスクの北・東・南側は高さ1～1.2mの野面積みの石垣によって囲まれています。西側では確認されませんでした。

グスク内には、ビロウやアダンなどの植物が茂っているため、その規模や構造についての詳細は不明です。現地を歩いて地表の状況を見たところ、少なくとも三～四つの小さな郭を持つグスクのようです。

【参考文献】
・知念村教育委員会。1986.『知念村の遺跡』。



遺跡遠景

八重瀬町

町指定史跡

みなとがわ いせき
港川遺跡

八重瀬町字長毛



26° 7' 44.46" N
127° 45' 33.21" E

町指定史跡 (平成28年7月5日)



用語解説

●複合遺跡

2つ以上の時代の遺跡が重なっている遺跡。

●多和田眞淳

1907(明治40)年生まれ、1990(平成2)年没。教育者・植物学者であるとともに考古学者としても活躍した。

●大山盛保

1912(大正元)年生まれ、1996(平成8)年没。港川人の発見者。戦後の沖縄で実業家として活躍する傍ら、県内各地で数多くの化石産出地を発見し、家族や社員、研究者らとともに調査した。

●放射性炭素年代測定

放射性炭素(¹⁴C)は炭素の同位体で、天然に存在する放射性元素のひとつ。地球上に広く存在し、食物連鎖によって生物に取り込まれる。遺跡に残る骨や貝、燃料に使った木炭、建物の柱、すべての有機物に炭素が含まれているので、放射性炭素年代測定法は、考古学の分野で最も広く使用されている。¹⁴Cは生物体が死ぬと減り始め、約5730年経過すると生前の2分の1になり、約1万1460年後には4分の1に、約1万7190年後には8分の1になる。この法則を基に、骨などの分析資料中にある¹⁴Cの量を調べることにより、何年前のものが推定できる。

遺跡遠景



全国的に有名な港川人骨が
発見された複合遺跡

あざながもう いせき きゅうせつ き
字長毛に所在する旧石器時代から近代にかけ
ての複合遺跡です。1955(昭和30)年に多和田
しんじゅん じょうもん ばん き
眞淳氏によって縄文時代晩期(約2500年前)の
いせき みなとがわ かいづか
遺跡として発見され、当初は「港川貝塚」と名付け
られました。

その後、1968(昭和43)年から1970(昭和45)
年にかけて大山盛保氏により、遺跡内にある石灰
岩の割れ目(フィッシャー)に堆積した赤土の中か
らじんごつ か せき
人骨化石が発見されました。特に1970(昭和
45)年に出土した人骨については「港川人」と名
付けられ、ともに出土した木炭のほうしゃ せいたん そ ねんだい
放射性炭素年代
測定の結果から約2万年前のものと推定されてい
ます。

発見されたじんごつ
人骨は5体から9体分で、その中で
も1号から4号と名付けられた4体分の骨は、全
身の様子が確認でき、国内の旧石器人骨を代表
する資料です(1号は男性、2~4号は女性)。

また、その後の調査で約9000年前や縄文時代
中期(約4000年前)及びグスク時代(約900~
600年前)の土器などのいぶつ さいしゅう
遺物も出土・採集されて
います。

一方で1887(明治20)年から戦後、コンクリー
トが普及するまでの間、遺跡周辺は採石事業が盛

遺跡遠景 (大山 盛弘氏提供)



んに行われた場所でもありました。主に長毛や港川一帯は一般的に粟石と呼ばれる加工しやすい琉球石灰岩(牧港石灰岩)の産地で、建築用材として広く利用され、今でも様々な場所で屋敷囲い等の外壁材として見かける事ができます。

現在は行われていませんが、当時の採石(石切)場跡が港川遺跡やその周辺の崖面または海岸などに残っており、採石産業が盛んだった頃の状況を見ることができます。

港川遺跡は約2万年前から長期間にわたり人々がこの地を利用し続け、生活していたことが確認できる貴重な遺跡です。

遺跡の近くを雄樋川が流れているよ。



旧石器時代の人骨化石の他、イノシシやヤンバルクイナ、ハブ、クナガネズミなどの化石も出土している。港川人の身長は、男性で153cm、女性が144cmくらいだったのだよ。



港川1号人骨



港川1号人骨 頭骨

【画像提供】港川1号・2号人骨:東京大学総合研究博物館所蔵

1100	1200	1300	1400	1500	1600
グスク時代			三山	第一尚氏	第二尚氏(前期)
新里村期			中森期		



● 港川2号人骨



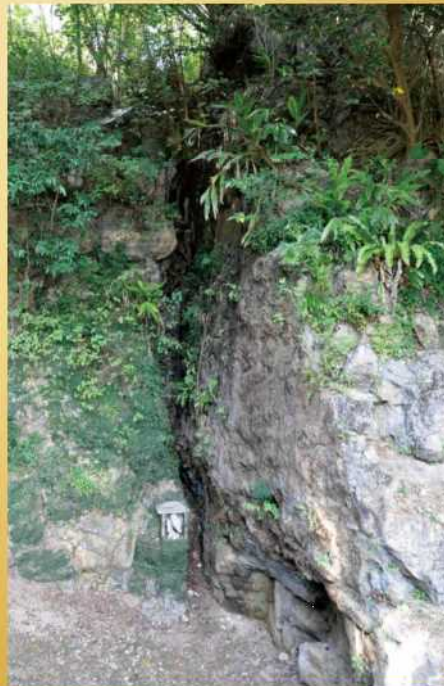
● 港川3号人骨



● 港川4号人骨



● 港川2号人骨 頭骨



● フィッシャー部分



● 港川4号人骨 頭骨

【画像提供】港川3号・4号人骨：沖縄県立博物館・美術館所蔵

八重瀬町

多々名グスク

八重瀬町具志頭



26° 7' 2.35" N
127° 44' 32.05" E



用語解説

●字破名城

島尻郡八重瀬町具志頭にある集落。

●郭

城内の平場を土塁や石垣などで囲んだ区域の名称。曲輪(くるわ)とも書く。

●野面積み

加工していない自然の石を、そのまま積み上げる石積み。もっとも古くからある積み方。

●『おもろさうし』

沖縄最古の歌謡集。「おもろ」とは、奄美・沖縄諸島に伝わる古い歌謡のこと。およそ12世紀から17世紀ごろにわたって各地で歌われた。首里王府がこれを編集したもので、全22巻からなり1554首が収録されている。本文は五行あて仮名まじり文。古文獻が少ない沖縄の古代を探る上で貴重な資料。

●グスク土器

グスク時代に沖縄で作られた土器。鉢・鍋・壺を主体とした底部が広い土器で、カムィヤキや滑石製石鍋を模して作ったと考えられる。

●滑石製錘

滑石というやわらかい石で作った、漁具の錘(おもり)。

【参考文献】

・具志頭村教育委員会。1986。『具志頭村の遺跡』。

● 四の郭の張り出し



● 試掘調査風景



字破名城の南側、標高約90mの段丘上に位置する面積約3万㎡の大型グスクです。グスクは上空から見ると三角形で四つの郭に分かれており、石積みの城壁が残されています。城壁は野面積みにより築かれています。

「多々名グスク」はもともと「ハナグスク」と呼ばれていたとの言い伝えがあります。沖縄最古の歌謡集である「おもろさうし」の中で「はなくすく」を称える内容が謡われており、このグスクがとても栄えていたことがうかがえます。

過去に試掘調査を行った際、縄文時代や近世の遺物もありましたが、グスク時代の遺物が多く出土しました。沖縄で焼かれたグスク土器、中国産やタイ産の陶磁器や、九州産の製品(滑石製錘)など、周辺地域からもたらされた様々な遺物があります。出土した遺物の種類と年代から、14～15世紀頃を中心に栄えたグスクと考えられます。

● 二・三の郭



● 二の郭



「おもろさうし」にも謡われる大規模グスク



● 一の郭（北側）



● 二の郭



● 遺跡遠景（西から）



● 遺跡遠景（北から）



外国とも交流
していたんだね。

このグスクの下方には、「破名城古島遺跡」と呼ばれるグスク時代から近世にかけての集落跡もあるのだよ。そこでは輸入陶磁器や古銭などが出土していて、多々名グスクをはじめ一帯が豊かな地域だったと考えられるのだよ。

